

古町地区将来ビジョン



2020年3月

新潟市

0 目次

1	はじめに	2
2	古町地区の歴史	3
3	古町地区の特徴	7
4	古町地区の将来ビジョン	9
5	将来ビジョンの実現に向けて	21

1 はじめに

なぜ作るのか？

本市では、新潟開港150周年を迎えることを契機に、新潟の都心機能の向上を図るため、まちづくりのランドデザインとなる「新潟都心の都市デザイン」を2018年7月に策定し、新潟駅周辺から万代地区及び古町地区、万代島地区へ連なる都心軸を中心としたまちづくりに取り組んでいます。

本ビジョンは、「新潟都心の都市デザイン」を踏まえ、古町地区がこれから先も魅力的なまちであり続けるため、将来像やその方向性を広く市民の皆様と共有することを目的に策定しました。策定にあたっては、学識経験者や古町活性化まちづくり協議会、地元商店街、まちづくり団体などの多くの皆様から古町地区の魅力や未来に対するさまざまなご意見やご助言を頂戴しました。

まちづくりは行政だけで進められるものではなく、地域住民や事業者など、多様な主体が連携しながら協働で進めていくことが重要です。今後、本ビジョンが広く共有され、古町地区に関わるさまざまな皆様とともに、本ビジョンのコンセプトである「つながりを育む歴史まち古町」の実現に向けたまちづくりの議論や取り組みが広がっていくことを目指します。

そして、都心軸から始まるまちづくりの動きが新潟の拠点性を更に高め、新潟全体の活性化へとつながっていくことで、将来にわたって新潟が持続可能で魅力的なまちになることを目指していきます。

新潟の都心機能の向上を目指す。

→ 「新潟都心の都市デザイン」を策定

→ 新潟駅周辺から万代地区、古町地区、万代島地区へ連なる都心軸を中心としたまちづくりに取り組み中

※本ビジョンは、今後の古町地区の望ましい将来像を表したものであり、事業計画や取り組みを決定・拘束するものではありません。

2 古町地区の歴史

古町の成り立ちは？

●江戸時代 ～新潟町の始まりと街区形成～

新潟町は明暦元（1655）年に現在の場所に移転・整備されました。

堀 信濃川と並行して、寺町堀（今の西堀）と片原堀（今の東堀）が町を貫き、これらの堀と信濃川を結ぶ5本の堀が掘られました

通り 店が立ち並ぶ古町通や本町通などが、信濃川と並行して設けられました

小路 通りと通りの連絡通路として、通りに直交する形で小路が設けられました



新潟町絵図 文政6(1823)年
【新潟市歴史博物館蔵】

●明治時代 ～開港と街並みの開化～

明治元（1869）年新潟港は開港し、信濃川べりには運上所（後の新潟税関）が建てられました。

明治5(1872)年、新潟県令に就任した楠本正隆の政策により、新潟町は開化の街並みに改造されました。礎町通、下大川前通などの町割りをし、高級住宅街として、通りに面した庇の幅や構造を統一させました。また、古町通などの旧市街地でも町の路面を整え、街並みをそろえさせました。



街並みの整備が進む古町通（明治初年）
【新潟市歴史博物館蔵】

●昭和時代 ～新潟のさらなる都市化～

昭和30(1955)年、新潟大火が発生しました。復興のため、「新潟市火災復興土地区画整理事業」が都市計画決定され、昭和31(1956)年から、東堀と一番堀が埋め立てられ主要幹線道路になりました。

市は、昭和39(1964)年の新潟国体開催までに全ての堀を埋めることを決め、西堀については存続を求める声が上がったものの、埋め立てられました。



西堀の正月 昭和34年【新潟市蔵】

● 榎谷小路の歴史

● 江戸時代～奉行所と町会所をつなぐ道路～

江戸時代には現在の NEXT21 と新潟三越にまたがる場所に奉行所が置かれ、榎谷小路（当時は榎屋小路）は、町役人たちの役所である町会所（現在の第四銀行本店の地）と奉行所をつなぐ幅3間（約 5.4m）ほどの狭い道路でした。



初代新潟県庁（旧奉行所）
【新潟市歴史博物館蔵】

● 昭和初期～まだ狭い榎谷小路～

昭和初期の榎谷小路は鏡橋付近が広く、古町方面は狭くなっていました。通りの両側に木造建築が軒を連ねていました。

榎谷小路は明治・大正期までは新潟のメインストリートというわけではありませんでした。



礎町から見た榎谷小路（昭和10年代）
【新潟市蔵】

● 昭和中期～新潟大火と復興～

昭和30（1955）年、医学町で火災が発生し榎谷小路などの中心繁華街を焼き尽くす大火となりました。そこで市は近代的な不燃都市防火市街地の建設を目指しました。

榎谷小路は、道路両側11mが防火帯に指定され、新しく建てる建築物は耐火建築となり、市街地の景観形成を促進しました。



新潟大火で焼き尽くされた古町・榎谷小路
【新潟市蔵】

新潟大火後の榎谷小路は、歩道や道路を人々が行き交い新潟交通の天然ガスのバスが走る、活気ある街となりました

とりわけ榎谷小路の建物は、鉄筋・鉄骨コンクリート造りで、3階建て以上に高層化し、榎谷小路商店街は復興目覚ましい区域の典型とされました。



新潟大火復興後の榎谷小路
（昭和30年代後半以降）【新潟市蔵】

●古町通の歴史

●江戸時代から明治時代～整然とした街並み～

江戸時代、古町通と本町通の2本の通りには、たくさんの店が立ち並んでいました。古町は元々、本町と呼ばれていましたが、新町（現在の本町）の発展により、明暦元（1655）年の新潟町移転までに古町と呼ばれるようになりました。



古町通 5・6 番町（明治初期）
【新潟市歴史博物館蔵】

●大正時代から昭和初期～新潟を代表する繁華街～

大正時代から昭和初期にかけ、古町通は新潟を代表する繁華街でした。大正3（1914）年には初の映画館「大竹座（古町通8番町）」が誕生し、その後相次いで「電気館（古町通6番町）」などの映画館が誕生し、賑わいに華を添えました。



古町通 8 番町 大竹座（年代不詳）
【新潟市蔵】

古町通6番町は、新興の盛り場として新潟一の繁華街となり、電気館やカフェ、勸商場などに多くの人々が集まりました。夜は、古道具屋、メリヤス屋、古本屋、植木屋などの夜店が道の両側を埋め尽くし、毎夜大勢の人々でにぎわいました。



古町通 6 番町 電気館（大正期）
【新潟市蔵】

●西堀の歴史

●江戸時代から昭和初期～堀と柳の都～

「堀と柳の都」といわれた新潟には、かつて多くの堀がありました。明治初期の資料によれば、30 近くの堀があり、百数十の橋が架かっていました。

堀の両岸には柳をはじめとする樹木が植えられ、堀を行きかう舟はコメや野菜など様々なものを運びました。堀は人々の生活に密着した欠かせない存在でした。



西堀通 5・6 番町付近（明治初期）
【新潟市歴史博物館蔵】

西堀は江戸時代には寺町堀と呼ばれていましたが、明治 5（1872）年に改称されました。人々の屋敷地と、県庁や寺とを画する堀で、幅は 4 間（約 7.2メートル）でした。西堀と両岸の柳並木は新潟を象徴する景観でした。



西堀通 4 番町付近（大正～昭和前期）
【新潟市蔵】

●昭和初期から中期～堀と橋のモダンな都市風景～

西堀は石積みの護岸や堀に架かる橋、そして通り沿いの近代的な建物から魅力的な都市風景を生み出していました。

西堀通 8・9 番町付近には置屋や料亭も多く、芸妓の姿がよく見られました。湊町新潟の象徴である西堀の堀端を歩く芸妓の姿は、新潟の観光写真の定番でした。



西堀前通 9 番町付近（昭和 32 年頃）
【新潟市蔵】

●昭和中期～堀の埋め立て～

昭和 30 年代、堀の水が流れず不衛生なことや、増大する自動車交通に対応するため、堀の埋め立てが求められました。

市は昭和 39（1964）年に開催される国体に向け、全ての堀を埋め立てることにしました。西堀の存続を求める運動もありましたが、埋め立て工事は実施されました。



西堀通 8 番町付近（昭和 38 年頃）
【新潟市蔵】

3 古町地区の特徴

古町は強みは？

●みなとまち新潟の趣

歴史

- 新潟町は、今から360年以上前の明暦元（1655）年に現在の場所に移転・整備されました。
- 当時、物流の幹線であった堀は現在道路に姿を変えていますが、町割りは360年以上変わらず当時のまま残っています。



※享保10（1725）年新潟町絵図に現在の主な施設や文化財等を重ね合わせたイメージ

開港

- 新潟港は、開港5港に指定され明治元（1869）年に開港しました。北前船の寄港地として、近世の新潟は日本でも有数の商業都市でした。
- また、外国人の来港は新潟の近代化に大きな役割を果たし、新潟の人々と交流して、新潟の国際化の礎となりました。



新潟湊之真景 安政6(1859)年
【新潟市歴史博物館蔵】

文化財

- 古町地区周辺には、文化財保護法に基づく3つの重要文化財（県政記念館、旧新潟税関庁舎、萬代橋）や2つの名勝（旧齋藤氏別邸庭園、白山公園）をはじめとした数多くの貴重な文化財が今日まで守り伝えられています。



旧齋藤氏別邸庭園

古町芸妓

- 江戸時代に発祥し、北前船や新潟開港により発展し、全国屈指の花街として京都祇園・東京新橋と並び称され、大正～昭和初期の最盛期には古町芸妓の数は300人を超えていました。
- 昭和62（1987）年、地元有力企業約80社の出資により「柳都振興株式会社」が設立されました。会社組織で芸妓を育成し、古町花柳界を支えています。



古町芸妓

歴史的建造物

- 古町地区には戦前に建てられた歴史的建造物が、幾度の大火や戦火をくぐり抜け今なお多く残っています。
- 古町通沿いに多い町屋建築のほか、古町8・9番町の新道沿いには三業[※]の建築とされる花街建築が残されています。



旧美や古（古町9番町）

※三業とは・・・料理を作り提供する「料亭」、座敷を貸すが料理は作らない「茶屋」、芸妓が籍を置き居住する「置屋」、の花街を構成する3つの業種のこと

活動

- 「歴史的な建築物を残したい」、「堀を復活させたい」、「まち歩きでまちの魅力を伝えたい」など、古町への想いを持ち、古町地区を舞台に、さまざまな活動をしている人たちがいます。これも古町の魅力の一つです。



古町地区の強みである趣や文化を守り活かし、さらに磨くことで、新潟の人々のまちへの愛着と誇りを育むとともに、交流人口の拡大や経済の活性化に結び付けつけます。

4 古町地区の将来ビジョン

明るい未来の古町へ向かうテーマは？

つながりを育む歴史まち 古町

～誇れる街の礎を、次の150年に繋げます～

まちづくりの方針

1

300年を超えるみなとまち文化の価値を届ける

古町には、江戸時代からの歴史的建造物や古町芸妓などのみなとまち文化が色濃く残っています。その価値やおもしろさを、市内外の人に、世界の人に、次世代に、届けます。

2

魅力が集う、文化交流舞台のまち

古町は、伝統文化やポップカルチャー、アートやグルメなどが集積し、魅力的な人や愛嬌のある人、こだわりや熱意を持って働く人、職人として技を磨いている人、たくさんの人たちが日々集い・交流する舞台です。歴史ある祭りや楽しいイベントなど、さまざまな魅力や人がつながる、舞台のようなまちを目指します。

3

住んでよし、訪れてよし、働いてよしの「ちょうど良い」まち

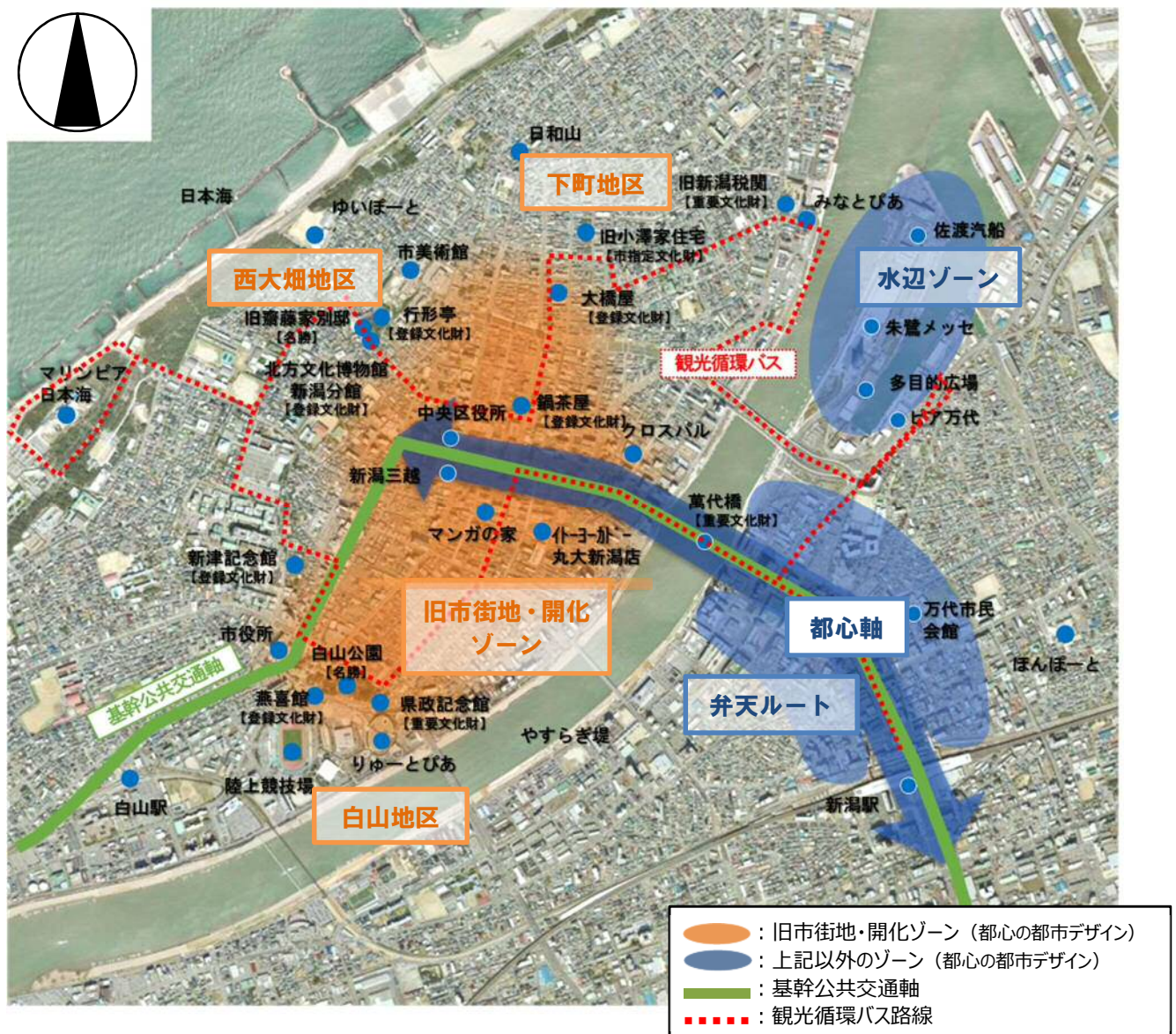
古町には、美味しい飲食店やこだわりの店、趣のある住まいや都会的な住宅、風情ある店や市場、現代的なオフィス、懐かしさを感じる街並みなど、さまざまな魅力が詰まっています。住んでいる人も働いている人も、まちを訪れる大人や子ども、世界の人も。みんなが心地よく過ごせるバランスのとれたまちを目指します。

可能性は人

古町に住んでいる人、古町で働いている人、古町で店を営んでいる人、古町に土地や建物を持っている人、古町が好きなお人。
歴史的街並みを残したい、堀を再生させたい、まち歩きでまちの魅力を伝えたい、何かおもしろいことをしたい、まちを元気にしたい、そんな思いを持った人。
古町に関わる事業者や団体、行政も。
得意分野を輝かせ、誇れる街の礎を積み重ね、次の150年に繋げます。

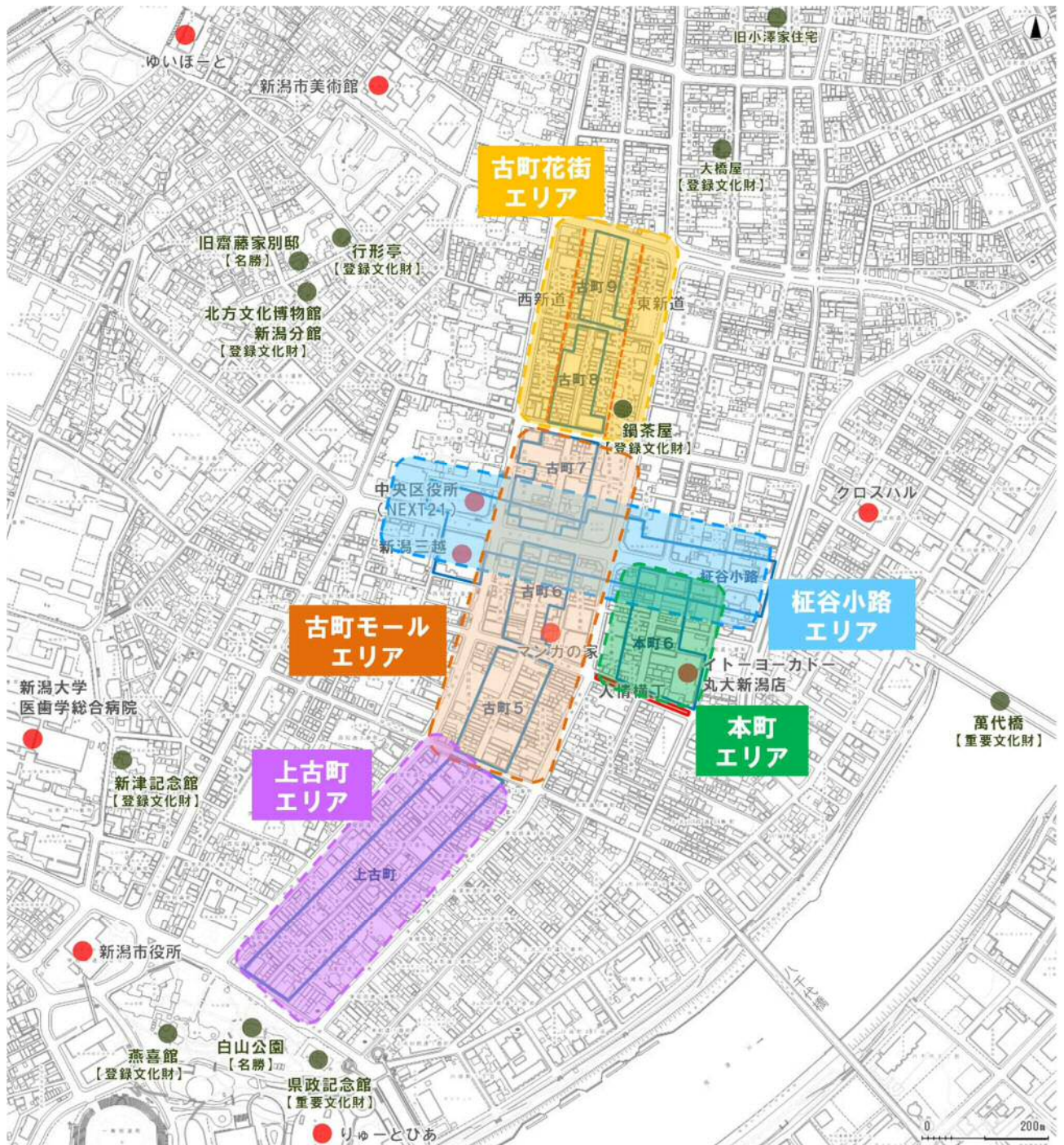
●新潟都心の都市デザインとの関連

- 古町地区は「新潟都心の都市デザイン」において、『旧市街地・開化ゾーン』と位置づけられています。
- 地理的・歴史的・経済的などの面で密接に関連している地域との連携や相互の波及効果という観点も重要であるため、本ビジョンでは、下記の地域とのつながりも考慮に入れるものとします。
 - ①都心軸でつながり、都心の都市デザインで示された他のゾーン
水辺ゾーンや新潟駅・万代広場ゾーンなど
 - ②町家や歴史的な建造物などみなとまち新潟の面影を色濃く残す周辺地域
(西大畑地区や白山地区、下町地区など)
- 新潟駅から続く都心軸のほか、信濃川と並行した通りや堀、それらと直交した小路などによってまちの歴史を積み重ねてきている。それらのつながりを活かして回遊性を高めることで、周辺地区等を含めたまちづくりを進めます。



●ビジョンにおけるエリアの分類

- 古町地区は通りや小路、昔あった堀などの要素によって町割りが構成されており、それらで区分されたエリアごとに特徴的な土地利用などがされています。
- 都市機能や商業機能が特徴的に集積した 5 つのエリアに分類し、それぞれのエリアごとの特性を生かしたまちづくりの将来像をイメージしやすくするため、各エリアのテーマを設定して、将来ビジョンを示すこととします。



古町花街エリア（ポートヒストリーエリア）～湊町新潟の歴史と文化が薫るまち～

- 古町芸妓などの花街(柳都)の歴史文化、料亭・割烹をはじめとする新潟の魅力的な食文化を有する
- 歴史的な建造物が多く残り、みなとまち新潟の歴史を感じる街並みとなっている



柁谷小路エリア（古町ステーションエリア）～新潟の今と歴史が交差する～

- 市役所ふるまち庁舎や中央区役所といった行政機能や銀行・証券会社等の業務機能が集積
- 公共交通等の都市機能が集積する「都心軸」と歴史が積み重ねられた軸である「通」が交差



古町モールエリア（センターステージエリア）～ヒト・モノ・コトの交流舞台～

- オーバーアーケードが設けられ、セレクトショップやファッション等の専門店が集積
- トリハダ像やマンガの家、古町演芸場といった様々な加乗機能を有し、各種イベントの場となっている



本町エリア（ニイガタリアルライフエリア）～地元の味も人情も楽しめる～

- 野菜や魚介類をはじめとする生鮮品の店舗や市場（露店）が集積
- 大型スーパーや医療関連施設が立地するほか、隣接する人情横丁には個性的な店舗が集積



上古町エリア（ミックスカルチャーエリア） ～古さと新しさのある白山公園に続く文化門前町～

- 若者向けセレクトショップやファッション店などが集積
- 昔ながらの建物をおしゃれにリノベーションして活用している店舗が集積



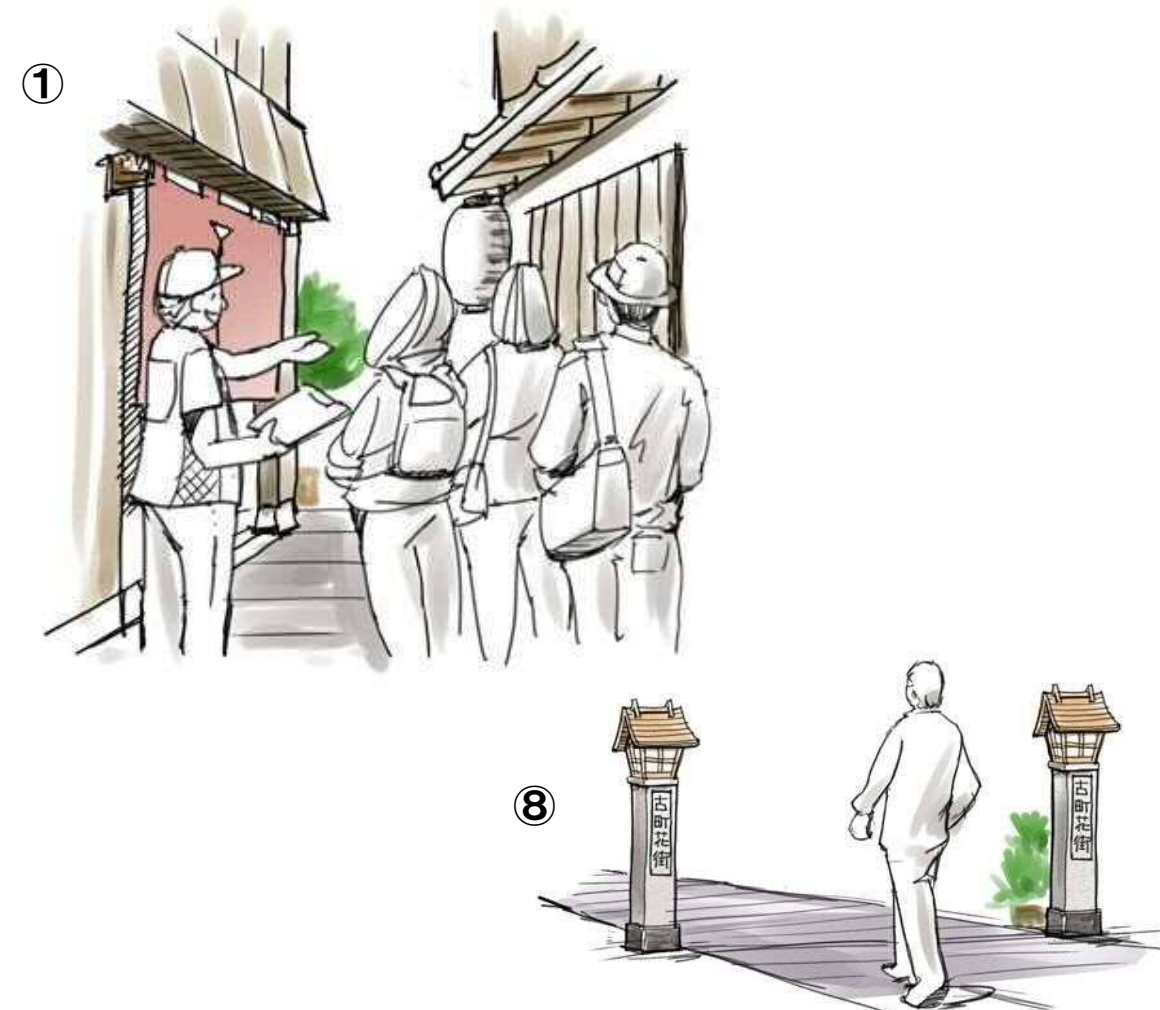
●エリアごとのビジョン (1)

※掲載内容はあくまでイメージです。

古町花街エリア (ポートヒストリーエリア) ~湊町新潟の歴史と文化が薫るまち~

<目指す姿>

- 歴史・文化的な街並みや古町芸妓や料亭などの花街文化が保存・継承され、「みなとまち新潟」が認知されている。そして、そこに関わる人々がそれらを誇りに思い、守ろうとしている
- 昼も夜も楽しめるコンテンツが充実し、観光客等が多く訪れ、周辺地区も含め、まちあるき観光や新潟の食が楽しめる拠点的なエリアとなっている



- ①昼も観光客等が訪れ、まち歩きや飲食等を楽しむことができる
- ②高齢者など、誰もが快適に歩くことができる公共空間となっている
- ③緑が多く、四季や風情を感じることができる
- ④色調、材質など、歴史的な趣を感じる調和した街並みが形成されている
- ⑤木造以外の建築物の外観も歴史的な街並みに調和するよう配慮されている
- ⑥街並みに配慮しながらも、それぞれの建物の個性が感じられる
- ⑦歴史的建造物が保存・継承され、有効活用されている
- ⑧サインなども街並みに調和したデザインとなっている

●エリアごとのビジョン (1) - 2

※掲載内容はあくまでイメージです。

古町花街エリア (ポートヒストリーエリア) ～湊町新潟の歴史と文化が薫るまち～

<目指す姿>

- 歴史・文化的な街並みや古町芸妓や料亭などの花街文化が保存・継承され、「みなとまち新潟」が認知されている。そして、そこに関わる人々がそれらを誇りに思い、守ろうとしている
- 昼も夜も楽しめるコンテンツが充実し、観光客等が多く訪れ、周辺地区も含め、まちあるき観光や新潟の食が楽しめる拠点的なエリアとなっている



- ①建物内外の照明に工夫や配慮がなされ、夜も趣を感じる街並みとなっている
- ②シンボリックな建築物や樹木のライトアップ、提灯の掲出など、街並みの魅力を活かした雰囲気づくりが進んでいる
- ③隣の通りや路地に入ると、違った趣を感じる街が続いている
- 地元の多様な食を楽しめる飲食店が集積した街となっている

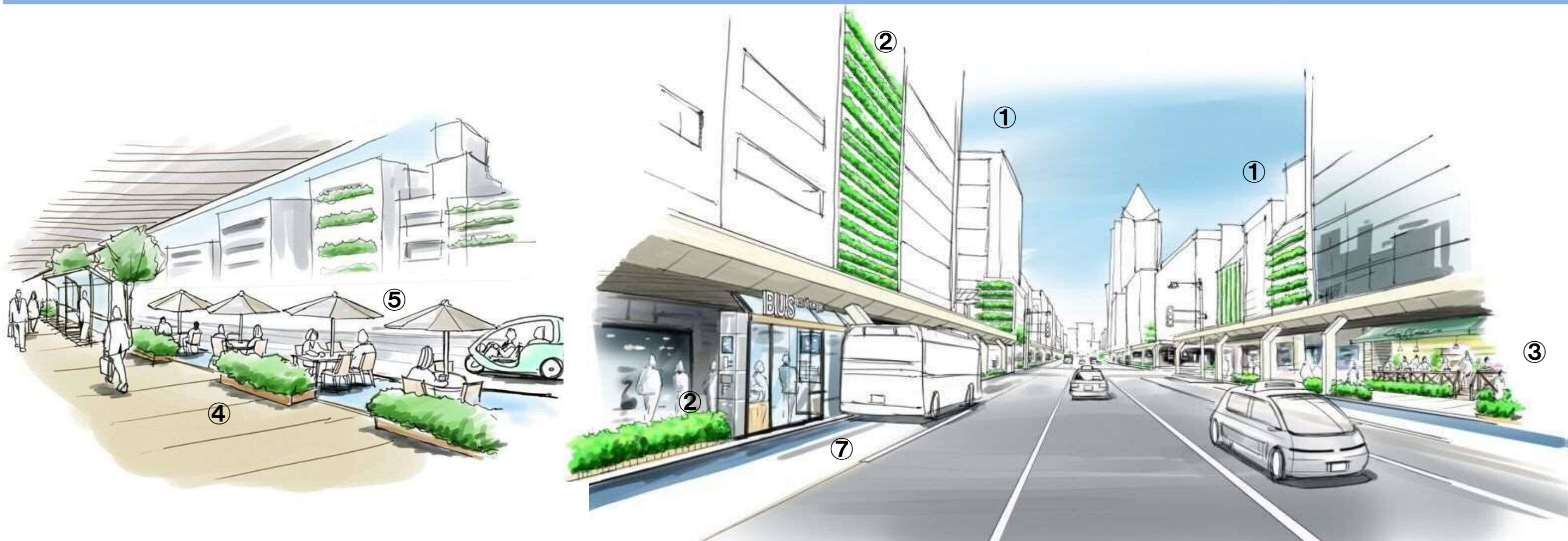
●エリアごとのビジョン (2)

※掲載内容はあくまでイメージです。

榎谷小路エリア (古町ステーションエリア) ～新潟の今と歴史が交差する～

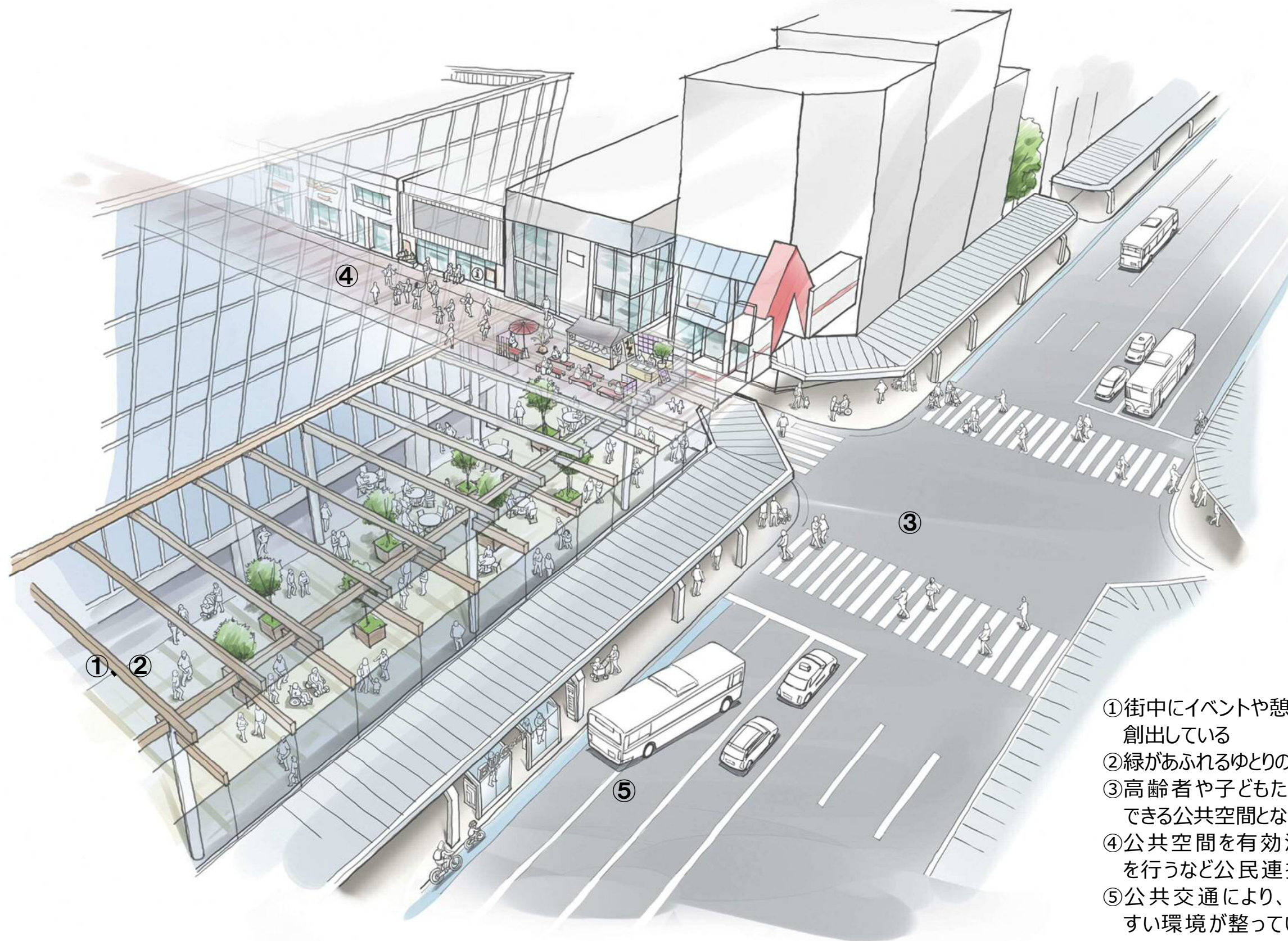
<目指す姿>

- 行政、金融などの業務機能が集積し、さらなる新規創業者の呼び込みや企業誘致などにより、政令市新潟の中心的な業務集積エリアとなっている
- 古町地区における公共交通の集積エリアとして、観光やまち歩きといった来街者の移動や案内に対応する古町地区のハブ的な機能が充実している



- ①ボリューム感のある現代的な建物が集積し、サインを含めて洗練された景観が形成されるなど、都市の風格を感じる街並みとなっている
- ②街中でも多くの緑を感じることができる
- ③働く人や来街者をターゲットとした飲食店等も充実している
- ④高齢者や子どもたちなど、誰もが快適に歩くことができる公共空間となっている
- ⑤公共空間を有効活用したイベントなど公民連携のまちづくりが進んでいる
- ⑥レンタサイクルや案内窓口など、公共交通の集積エリアとして古町地区のエントランスやハブ的な機能が充実している
- ⑦公共交通により、駅や他のエリアとアクセスしやすい環境が整っている
- 貸しカートや貸しロッカーなど、買い物や観光の利便性を高める設備が備わっている
- ポケットパークやオープンスペースなど、緑あふれるゆとりの空間がある
- 夜も明るく、賑わいを感じる街並みとなっている

榎谷小路エリア・古町モールエリア（古町十字路）周辺



- ①街中にイベントや憩いの空間が整備され、賑わいを創出している
- ②緑があふれるゆとりの空間がある
- ③高齢者や子どもたちなど、誰もが快適に歩くことができる公共空間となっている
- ④公共空間を有効活用したイベントや社会実験を行うなど公民連携のまちづくりが進んでいる
- ⑤公共交通により、駅や他のエリアとアクセスしやすい環境が整っている

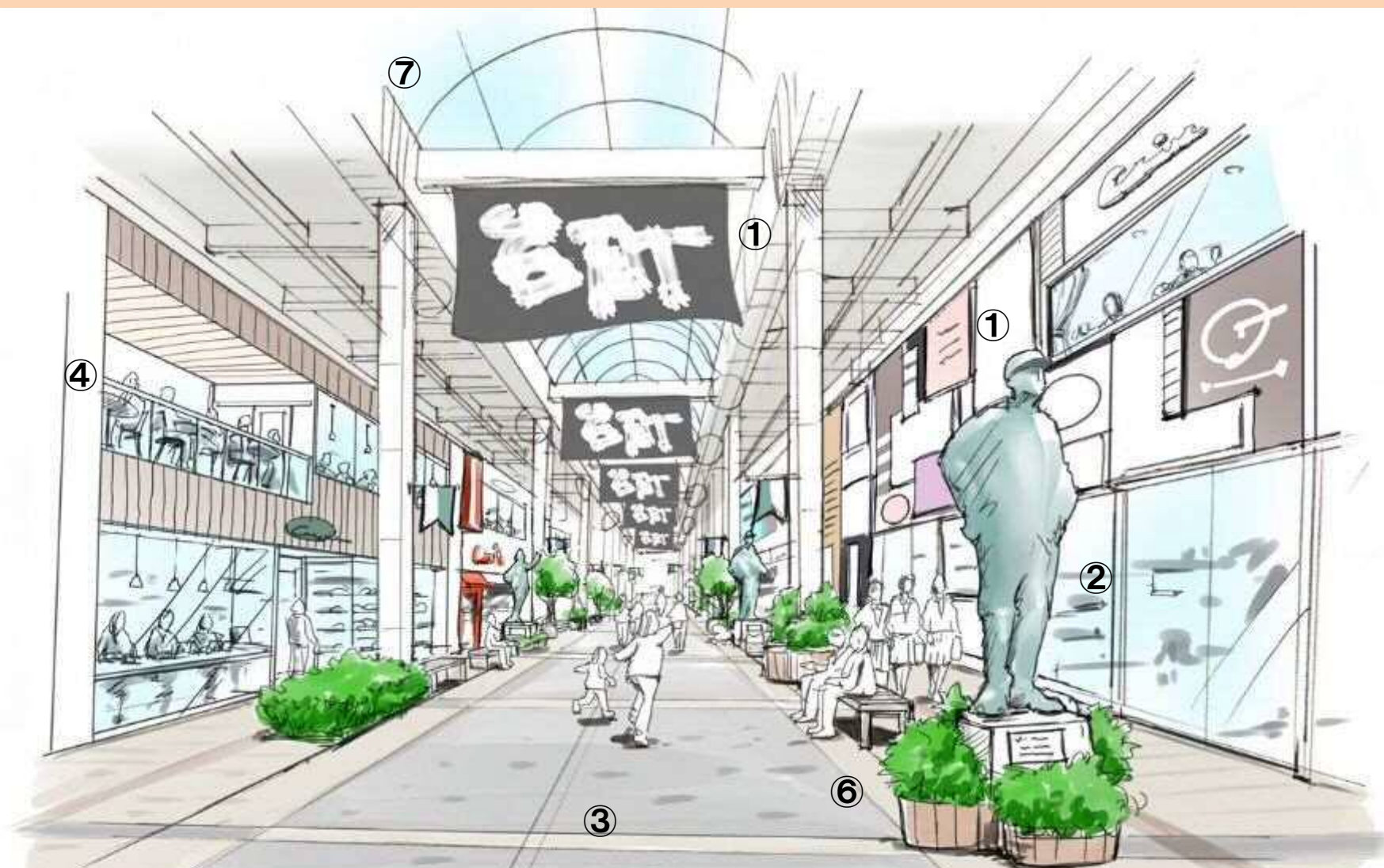
●エリアごとのビジョン (3)

※掲載内容はあくまでイメージです。

古町モールエリア (センターステージエリア) ~ヒト・モノ・コトの交流舞台~

<目指す姿>

- 洗練されたファッションの店や多様な専門店が集積し、定期的にイベントが開催されるなど、さまざまなヒト・モノ・コトが交流するエリアとなっている
- マンガ、アニメ、アート、芸能など、伝統文化からポップカルチャーまで、さまざまな文化と街が融合し、歩くだけでも楽しい空間となっている



- ①サインや装飾、アート・カルチャーなどに溢れ、歩くだけでも楽しい空間となっている
- ②新潟にちなんだ偉人やキャラクターなどのモニュメントなどが飾られている
- ③高齢者や子どもたちなど、誰もが快適に歩くことができる公共空間となっている
- ④デッキやテラス席など天井の高さを活かし、2階レベルの賑わいも生まれている
- ⑤モール内の公共空間を活用した大型イベントの開催など公民連携のまちづくりが進んでいる
- ⑥緑やベンチ、オープンスペースなどがあり、ゆっくりと過ごせる空間となっている
- ⑦天候を気にせず過ごすことができ、夜も明るく安全に歩ける空間となっている
- 時代を感じる街並みと新たな機能が融合し、懐かしさと新しさを同時に感じる街となっている
- 上下 (カミシモ) 方向や他のエリアとの回遊性が向上している
- イベントやアート・カルチャーなどと店舗がコラボして、相乗効果を生み出している

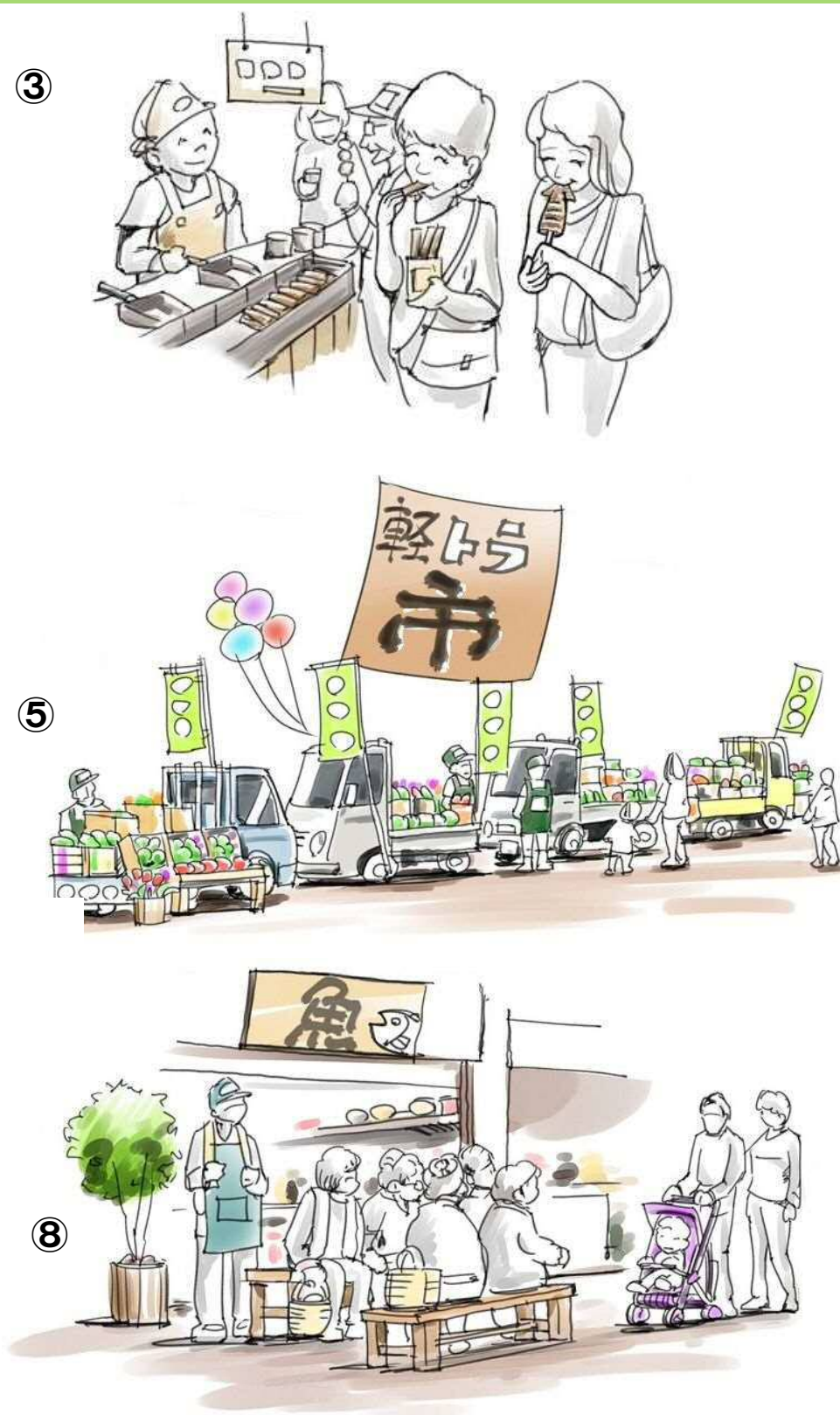
●エリアごとのビジョン (4)

※掲載内容はあくまでイメージです。

本町エリア (ニガタリアルライフエリア) ~地元の味も人情も楽しめる~

<目指す姿>

- 生鮮品などの店舗や市場が集積し、地域住民や来街者の台所・食堂機能として賑わうエリアとなっている
- 医療品や日用品など、周辺住民の日常生活を支える店舗等が集積し、飾らない新潟の普段の生活が感じられるエリアとなっている



- ① 生鮮品や日用品の店舗などが集積し、気軽に買い物に行けるまちとなっている
- ② ベンチや飲食スペースなどが整備され、ゆっくり過ごせる空間となっている
- ③ 地元のローカルフードが食べ歩きできる飲食店など、地元ならではの味を楽しめる
- ④ 緑が多く、ゆとりや潤いを感じることができる
- ⑤ 昔ながらの市に加え、朝市・夜市・軽トラ市など、様々な市が開催されている
- ⑥ 高齢者や子どもたちなど、誰もが快適に歩くことができる公共空間となっている
- ⑦ 天候を気にせず過ごすことができ、夜も明るく安全に歩ける空間となっている
- ⑧ 地元やお店の人の人情に触れることができ、どこか懐かしさを感じる街となっている

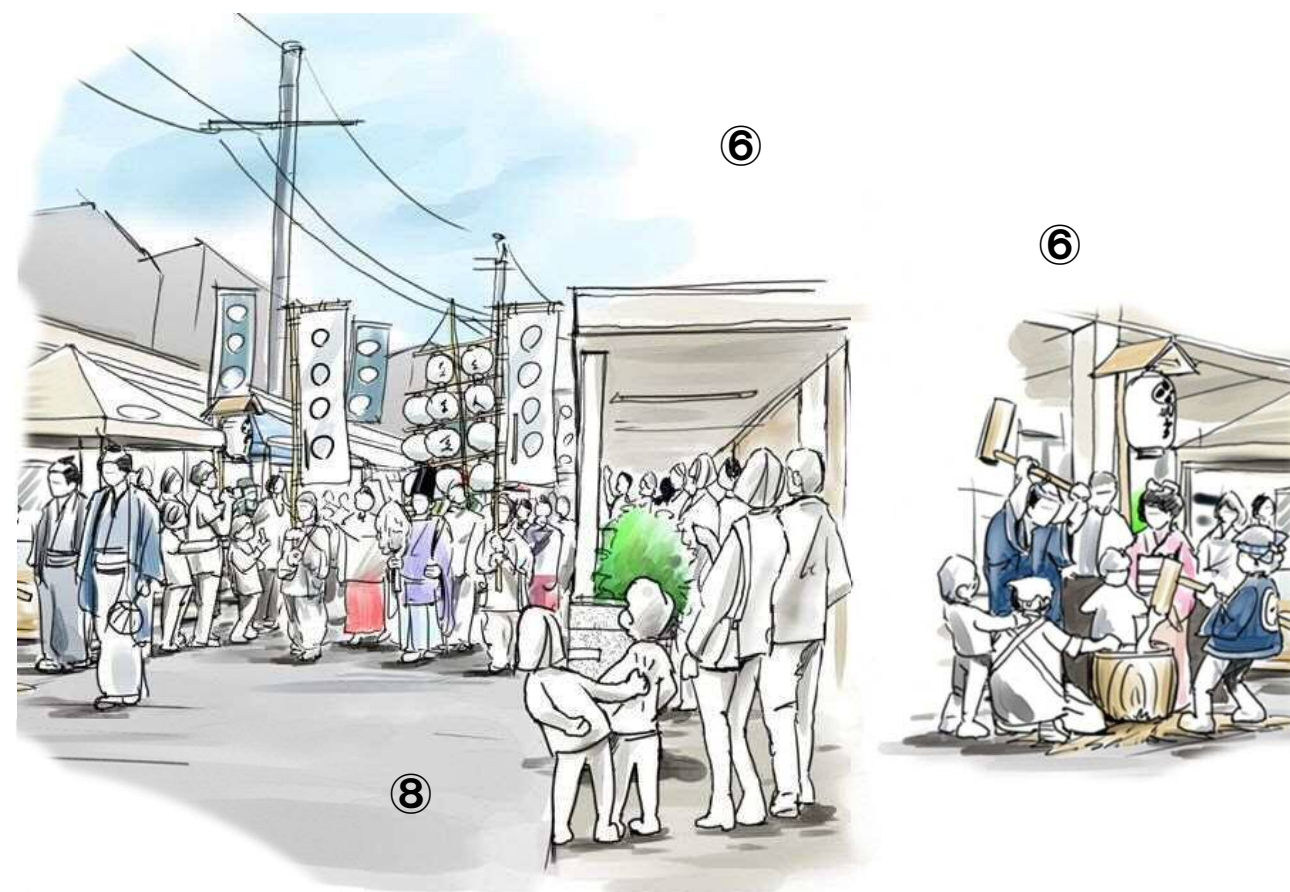
●エリアごとのビジョン (5)

※掲載内容はあくまでイメージです。

上古町エリア (ミックスカルチャーエリア) ~古さと新しさのある白山公園に続く文化門前町~

<目指す姿>

- 昔ながらの建築物のリノベーションなどにより、若者向けや観光客向けのセレクトショップなど、魅力的な個店が集積している
- 白山神社を起点としたまち歩き観光のスタート地点として、まちなかに歩いていきたくなるような空間となっている



- ① 建築物・アーケードなどの色調や材質などが調和し、歴史的な参道の情緒がある街並みとなっている
- ② 低層中心の建築物で圧迫感や突出感を感じさせない街並みとなっている
- ③ 車庫等に木調の格子戸が設けられるなど、生活感を感じさせないよう配慮された街並みになっている
- ④ ベンチが置かれ、ゆっくりと過ごせる空間となっている
- ⑤ 若い創業者やクリエイターなどの個性的な店舗があり、歴史的な街並みに新たな機能がミックスされた独特の空間を作りだしている
- ⑥ 公共空間を活用した新たな取り組みが行われるなど公民連携のまちづくりが進んでいる
- ⑦ 街中にも緑が多くあり、潤いを感じることができる
- ⑧ 高齢者や子どもたちなど、誰もが快適に歩くことができる公共空間となっている
- 照明にも工夫や配慮がされ、夜も趣を感じる街並みとなっている

○通り（古町通・本町通）

老舗の料亭・店舗、昔ながらの純喫茶、文化施設などのさまざまな施設が共存しています。

時代の風情を感じることができる趣を残したリノベーションや新たな機能とのコラボレーションなどによる新たな魅力の創造、誰もが移動しやすい環境整備など、古町地区を貫く幹線として、歩いて楽しいまち（通り）を目指します。



○堀

街を縦横に結んでいた堀は埋め立てられて道路となっていますが、人や物資の交通網としての役割は現在でも変わっていません。みなとまち新潟の象徴であった、堀があった歴史や面影などを次代に引き継ぐことができるような空間づくりを目指します。



○小路

通りと通りの連絡通路として、通りに直交する形で小路が設けられ、昔から愛着を持って呼ばれてきた小路の名前は今に伝えられています。各エリアや周辺地域との回遊性や連携を高める要素として、情緒的な雰囲気を残しながら、みなとまち新潟の歴史や魅力を歩いて楽しむことができるような空間づくりを目指します。



○周辺地域等との連携

西大畑地区や白山地区、下町地区などの周辺地区の遺産と一体的にみなとまちの歴史・文化を味わえるような仕掛けづくりや、他ゾーンとのアクセスの向上などにより、さまざまな新潟の顔を味わえるようなまちづくりを目指します。



5 将来ビジョンの実現に向けて

明るい未来のためにみんなでどう取り組んでいくか？

1 歴史的な建造物・街並みの保存

古町花街エリアをはじめとする地域に多く残る歴史的な建造物や街並みの維持・保存に係る意識啓発、修景や活用促進などに取り組みます。

2 古町芸妓など、みなとまち文化の継承

古町芸妓や食などのみなとまち文化を気軽に楽しめるコンテンツの充実や情報発信などを通じ、みなとまち文化の次世代への継承に取り組みます。

3 多様な地域資源の磨き直し

さまざまな地域資源を見つめ直し、改めて磨き上げることで、来街者や観光客、ファンを増やし、魅力的なヒト・モノ・コトの交流促進に取り組みます。

4 連携強化・回遊性の向上

都心軸のアクセス性などの機能強化や古町地区内の各エリア間の連携強化、一体感の創出、歩きたくなる・移動しやすい環境の整備などに取り組みます。

5 既存ストックの有効活用

空き店舗などのあっせんやまちの方向性に適した活用、リノベーションや文化・芸術などのコラボレーションによる新たな魅力の創出など、既存ストックの活用促進に取り組みます。

6 情報発信の強化

古町の魅力やみなとまちの歴史・文化などのブランディングに取り組み、新たな交流を生み出すとともに、シビックプライドの醸成などに取り組みます。

7 多様な主体との連携

古町に関わる人をはじめ、広く市民の皆さまとまちの方向性を共有し、多様な主体と連携・協力しながら取り組みます。

●古町地区の全体鳥瞰図（イメージ）



「古町地区将来ビジョン」について

～（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会座長：東京大学名誉教授 西村幸夫氏から～

信濃川に並行した西堀と東堀、古町通りや本町通りが街を貫き、それに直行した40本近い小路が計画的に配置された。近世の最先端の都市計画で移転整備されたその町割りは現在までほとんど変わっていない。（また、歴史的建造物やみなとまち文化が今日まで守り伝えられている。）300年以上にわたって積み重ねられた歴史は、他の地区にはない古町の大きな強みであり、貴重な財産である。

古町の街並みは、場所によって全蓋型のアーケードがあったり、路地があったり、飲食店が多かったり、市場がたったり、現代的な建物の裏道に入ると歴史的な建造物が急に現れたり、とまるで近世の通りの近代化の多様なコレクションのようだ。そういった見慣れた風景の中にある、自分たちが持っているもの、まちにあるものをもう一度振り返って見ることで、これからのまちづくりの戦略が見えてくる。

まちはそれぞれの時代を生きた人々の想いが形となり、形づくられてきたものである。まちの長い歴史の中の一瞬を、今を生きる私たちが担い、次の世代へつないでいく。誰もがその担い手になることができる。自分の身の回りの魅力を高めることが、まちを形づくっていき、それが自分の生活のエネルギーにもつながっていく。

懇談会を通じて、古町地区を愛する人がたくさんいることを知った。新潟駅から古町までの街を貫く近代の軸である都心軸（榎谷小路）と古町通り・本町通りなどの近世の軸が直交する、まちのへそとも言える古町地区に新たな歴史が積み重ねられていくことを期待している。

令和2年3月 西村 幸夫

新潟市 政策企画部

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602-1

電話：025-226-2152

2020年3月